

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172500205		
法人名	(株)セイヨウトレーディング		
事業所名	グループホーム ナンウェーブ		
所在地	岐阜県安八郡輪之内町南波380-1		
自己評価作成日	平成30年8月29日	評価結果市町村受理日	平成30年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosvoCd=2172500205-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念:愛を持って気遣い、真心を込めた介護で地域とともに自立の手助けをします。医療連携を密にして、医療依存度の高い重症の方でも入所を受け入れて施設内看取りを提供しています。その際、本人や家族様の意向を尊重し苦痛除去優先の慈悲の介護を提供しています。地域密着型サービスを反映できるように、近隣の子供園・小学校との交流、お祭りや地域カフェ、四季折々の花見等への外出を重んじ、住み慣れた地域で安心して生活して頂けるように努めています。利用者様本位の介護を提供するために、本人のみならず、運営推進委員会や家族様の意見を尊重しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は4年前に移転し、自然豊かな環境の中で、利用者は、毎日の散歩で出会う地域の人々と挨拶を交わしている。また、運営推進会議には、行政や地域区長、民生委員、家族代表等多くの参加があり、多様な意見や提案を事業所の運営やサービスに活かしている。医療との連携が取れており、重度の利用者の受け入れも行い、看取り体制も整えている。また、管理栄養士による健康的な献立と、専門の調理師による家庭的な味付けの料理は、利用者の生きる糧となっている。利用者が、自分で出来る事を楽しみながら暮らせるよう、職員がアイデアを出し合って支援し、愛の心で利用者を気遣いながら、真心込めた介護を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「愛を持って気遣い、真心を込めた介護で地域とともに自立の手助けをします」と掲げ、会議室と事務所に掲示することによって職員全員が理念を意識しながら、利用者様への言葉掛けや対応を優しく親切に丁寧に支援しています。	理念は、いつでも確認できる事務所や会議室に掲示している。職員は、利用者との会話の中でも、常に理念を意識した接し方で支援している。また、利用者が、地域と関わり合いながら、楽しく暮らせるよう理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の祭りや防災訓練等の行事に参加している。また、近隣のこども園・小学校と交流している。地域の「カフェふくろう」には毎月参加し利用者様が馴染みの方と交流されている。日課の散歩の時も近隣の方が声掛けをしてくださり、たまには野菜等くださいます。	歩いて行ける距離にあるこども園や、小学校の運動会や行事に出かけたり、子供たちが訪問してくれるなどで交流している。また、自治会にも加入しており、地域行事や防災訓練に参加し、地域で毎月開催されている「カフェふくろう」は、利用者も参加を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域小学校6年生が社会科授業の一環として施設訪問をされる際は、分かり易い言葉で認知症と施設の暮らしを説明します。施設長は「オレンジカフェわのうち」で認知症の講師をしています。地域ケア会議でも積極的に意見を出しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し行事や実践報告・利用者様へ提供のおやつ等の試食等を通じて意見交換を行いサービス向上の参考にしていきます。家族様代表2名も毎回参加されているため、家族から見た利用者様の変化等も意見を聞いてケアプランに生かしています。身内以外の方の変化も話されます。	会議では、事業所の取り組みや症例報告、課題等が話し合われ、行政、地域、家族と出席者全員が意見を述べるなど、活発な意見交換が行われている。話し合われた内容は速やかに職員と共有し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括職員による施設訪問聞き取りの際、施設の特徴や現状報告・地域での役割等を報告しています。その他、空床状況や在宅での認知症介護相談・入所申し込み等、常に連携しています。	運営推進会議や、管理者が地域ケア会議に出席した際に、市の担当者と連携を深めている。事業所の現状を報告し、空床状況の相談や地域の高齢者情報等の把握など、協力関係も良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを整備し、徘徊や帰宅願望が強い等、介護が難しい利用者様には、職員同士が話し合い介護方法を共有する事により、身体拘束をしないようにつとめています。ユニット会議や年4回の全体会議等で介護方法等介護職の認識を確認しています。	職員同士で常に話し合い、声をかけ合いながら、身体拘束をしないケアを実践している。不穏な利用者には寄り添いながら、安心・安全なケアの実践に取り組んでいる。転倒予防にはセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設における虐待防止に関する情報を介護職間で共有し虐待が発生しない環境に勤めています。身体的虐待のみならず、言葉による虐待にも配慮し、職員間で注意をはらっています。些細な傷にもレポートを提出し原因追究により見逃しを防いでいます。		

岐阜県 グループホームナンウェーブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所の相談や入所時の説明時に、必要に応じて権利擁護の説明も行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は本人様の意思確認を行った後家族様へ説明し、同意・納得を得た上で行っています。改定が発生した場合は、速やかな文書発送と、面談による説明を行い同意・納得を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に利用者様の状態報告を行い意見や要望等を伺うようにしています。運営推進委員会の意見や介護相談員の意見も取り入れています。	現在、全ての利用者家族が、月に一度以上訪問があり、職員は家族が訪問した際、意見や要望を聞いている。出された意見や要望に対し、速やかに対処・改善を行い、家族にその旨を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は三ヶ月毎の全体会議や、年2回の人事考課で職員の意見や要望を聞いて運営に反映しています。日常業務の中でも現場目線の意見は早急に取り入れ、働きやすい職場環境の改善に繋げています。また福利厚生の充実を図り離職防止にも努めています。	管理者は、日常業務においても、職員が気軽に意見や提案を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。職員から出た夏祭りの開催についての提案や、おはぎ作りなど、意見を取り入れ実践している。また、働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートで個人の目標や反省を確認し努力や実績は代表へ報告し給与へ反映されています。正社員のみならず、パートにも有給を提供し、労働時間や希望休の要望を叶える等、働きやすい環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は日常的に個人の力量に合わせたケアの指導や、利用者様の状態の知識を提供しています。外部研修への参加も個人の環境にあったものを提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長はグループホーム協議会、介護サービス連絡協議会等に参加し他事業所との交流を深めています。特に安八広域連合圏の施設長会には介護職も参加して意見や情報の交換を行っています。合同開催の研修等にも参加し、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人と面談し積極的にコミュニケーションを図り、質問には丁寧に分かり易く説明し、安心して入所して頂けるように務めています。ケアマネや事業所とも連携し、生活情報を把握しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み・事前面談・入所時の説明等で家族様が納得されるまで説明し、同意を得ています。家族様の思いに寄り添い、ケアプランに反映できるように務めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時や事前面談の折、本人や家族の思いに寄り添えるように丁寧に傾聴し、当施設への入所が最善の策か見極めるようにしています。特に経済的な問題はショートステイや特養等 他の事業所や介護サービスを提案したりしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の個性や特徴を把握して、利用者間の思いに添ったケアを提供できるように、やりたい事・出来る事の把握に務め、掃除や洗濯等一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様に、面会時や たよりで利用者様の状況を報告し、場合によっては外出や一時帰宅等家族支援を依頼したりして、家族と職員が一体となって利用者様をケアしています。誕生会やイベントにも可能な限り家族参加を依頼しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の会話の中から、馴染みの人や場所等を把握して、外出へ同行したり、面会に来て頂くなど支援を継続しています。	家族の協力のもと、昔からの馴染みの神社に出かけたり、地域の人が集まるカフェに出かけ、親戚や友達に会っている。また、継続的な来訪がある音楽療法士、訪問リハビリ、訪問美容師などが馴染みの関係となっている。	これからも、馴染みの場所や人に会う為の外出機会が増えるよう、個別ケアの取り組みにも期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が上手くいくように、座席への配慮やレク等の座席等 職員は常に調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先への情報提供は詳細にして、利用者様が安心して転居できるように配慮しています。転居後も家族様やケアマネ等と連携し、場合によっては家族様の相談に対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者様の日常の仕草や表情・言葉を見逃さないように努め、本人の思いや希望を汲み取るように努めています。その情報は職員間で共有して利用者本位の支援に努めています。	日々の暮らしの中で、利用者から思いや意向を聞いている。時には一緒にソファーに座って、ゆっくり会話をし、希望や思いの把握に努めている。会話が困難な場合は、その人の表情や仕草、行動を見落とすことのないよう努め、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にフエイスシートを家族に書いて頂き、生活歴や環境 馴染みの物を把握し、居宅のケアマネや関係者からサービス利用時の情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は本人との会話や生活態度、記録や申し送り等により個々の状態を把握し、情報を共有する事で、本人の出来る事 やりたい事を尊重したケアに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子をアセスメントにより把握して、本人や家族からの要望、担当者からの情報を詳細に聞き取りケアプランを作成しています。職員全員でカンファレンスにより意見交換や見直しを行っています。状況の変化時や家族からの要望等があった場合、臨機応変に対応し、モニタリングしています。	日頃から把握している利用者と家族の意向と、医師や理学療法士、職員などの意見を反映した介護計画を作成している。職員は計画に基づいたケアの実践を毎日記録し、計画の進捗状況を可視化して、モニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、正確に分かり易く丁寧に記録して職員間で情報を共有し、日々のケアやケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の送迎や付き添い 一時帰宅への送迎、役場への書類代行等柔軟に対応しています。		

岐阜県 グループホームナンウェーブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の フラワーセラピー・音楽療法・訪問リハビリ・カフェふくろうへの外出、地域ボランティアの受け入れ、地域のイベントへの参加等積極的に地域資源を活用し、豊かな暮らしへの支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を基本としながら、協力医療機関による往診や受診体制を整えている。訪問歯科や眼科・皮膚科の受診に付き添いする等適切な医療を受けられる環境にあります。	多くの利用者が今までのかかりつけ医を継続し、協力医の往診も受けている。また、緊急時には、かかりつけ医と協力医が、連携して対応を行っている。専門科への受診は、家族や職員が同行して、適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定による健康管理の他、介護職は利用者様の日常の変化を密に施設看護師に報告するため、利用者様は適切な受診が出来る体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設看護師が付き添い、口頭とサマリーにより情報を提供し、入院当初より、医療機関と連携し、退院に向けた支援体制に入りながら、利用者様が切れ目の無い介護や医療を受けられるように支援しています。日頃は看看連絡協議会に所属し病院関係者と連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内看取りを尊重している為、入所当初より本人や家族の思いを確認しており、必要に応じて同意書を提供します。看取りは「自然に穏やかに」の信念で取り組んでおり、状況に合わせて、医師・家族・看護師により看取り計画書を作成し、密接な連携により支援を行っています。	入居時に利用者や家族の思いを確認し、重度化や終末期の対応を説明している。看護師資格を持つ管理者が中心となり、重度の医療行為が必要な利用者の受け入れも積極的に行い、これまで年間7～8人の看取りを経験している。職員も実践を通して力量が養われてきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や応急手当は日常的に施設看護師により訓練しており、夜間急変が予測される場合は個々に応じて対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に於いては年2回の防災訓練を行い、地域の防災訓練や隣接施設への避難訓練等を利用者・地域住民と共に行っていますが、水害地域であるため、行政の指導に合わせた対策を本社を中心に検討中であります。	地域住民の協力を得ながら、防災訓練を行っている。また、必要最低限の備蓄品も確保している。台風時の停電を経験し、行政との協力体制や連携方法等の課題が得られた。	災害に備えて課題を検証し、より一層行政と連携を強化しながら、総合防災対策に取り組まれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者一人一人を人生の先輩として敬い、無理強いをしない支援を実践しています。居室の入り口には好みの暖簾を掛け「本人の家」として位置づけ、利用者のプライバシーを守る事を意識して対応しています。	トイレ誘導は小声で声をかけ、周りの利用者聞こえないように配慮している。また、一人ひとりの気持ちを尊重し、その人のこだわりを大切にしている。髪を整え、職員と一緒に洋服を選ぶなど、身だしなみにも気を付け、利用者の自尊心を損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常介護の中で、選択肢の無い言葉掛けではなく、利用者様の状態に応じた声掛けや傾聴・表情の汲み取りにより、本人が自己決定出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や散歩の時間・コース等、可能な限り個人の意思を尊重し、一人一人のペースを大切にするようにしています。昼間はホールや居室で自由に過ごせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思に添った服装や身だしなみを尊重しています。毎月の訪問美容では髪型・毛染め等本人の希望で行います。イベント時に着物を着たり化粧したり、適宜 おしゃれも提供しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングに献立表を掲示し、旬の野菜や果物を取り入れています。下ごしらえや後片付けは職員と利用者様が一緒に行い、食卓の座席を同じ形態の人同士にするなど、食事が楽しく出来る雰囲気づくりをしています。誕生会やイベント時には利用者様の希望を取り入れます。	調理専属の職員が旬の野菜などを使い、利用者の希望を聞きながら、家庭的な料理を提供しつつ、おやつに至るまで手作りしている。利用者は、下ごしらえや後片付けに関わり、楽しみながら準備や食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量は記録をして管理し、個々の状態に応じた形態や量を提供しています。管理栄養士の献立を専門の調理師が料理するため、急な状態の変化にも臨機応変に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医師や歯科衛生士の指導の下 毎食後に個々に応じた口腔ケアを提供しています。		

岐阜県 グループホームナンウェーブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っています。オムツの人は排泄量や時間に合わせた交換を行い、オムツ使用量軽減に努めています。	職員のトイレ誘導により、排泄の自立ができていく人が多く、利用者一人ひとりの状態とタイミングに合わせて、トイレへ促している。おむつやパッド使用の利用者についても、排泄パターンを把握し、適切な交換で排泄用品の使用軽減が実現している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分管理・食事内容・運動や散歩を加味しながら個々に応じた対応をしています。内服の関係で便秘の方は医師の指示の下、下剤や座薬を使用します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回ですが利用者の希望や状態の変化に柔軟に対応しています。温泉入浴剤を使用したり機械浴に依る安楽な入浴を提供したりして、個々に添った支援をしています。羞恥心や恐怖心に配慮し、入浴の順番や曜日等にも個々への配慮をします。	入浴の回数や時間帯など、基本的に決めているが、必要に応じ柔軟に対応している。個浴と機械浴があり、個々の状態に合わせた浴槽を選択している。仲の良い人と一緒の入浴希望にも対応でき、楽しい入浴時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や居室での休憩は自由ですが、夜間の安眠障害にならないように配慮します。冷暖房・寝具・湯たんぽ等、本人の希望を取り入れ、環境を調整して、職員の話し声等の騒音にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により服薬管理と内服確認を行っていますが、薬剤情報を記録紙の中に管理し、職員全体が内服管理を共有しています。状態の変化時は速やかに主治医に報告し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた手伝いや手芸、音楽や読書等馴染みの楽しみ事が継続できるように配慮しています。家族からの嗜好品の差し入れ等には他の利用者に気兼ねなく食べれるような配慮をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調に合わせて、一日一回の散歩や花見等の外出支援を行っています。家族の協力の下、個別外出支援も行っています。車椅子やストレッチャーの方も散歩に参加し、外気に触れるようにしています。	雨天以外は、ほぼ毎日散歩に出かけている。地域の「カフェふくろう」に毎月出かけたり、年間行事では四季折々の花見に行くなど、外出の機会が多くある。利用者の希望により、家族の協力を得ながら、おちよぼ稲荷神社への外出も実現している。	

岐阜県 グループホームナンウェーブ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替払いですが、家族の了解があれば本人管理になっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話は家族が了解されれば持込可能です。現在一人あります。本人が家族に電話したり、電話口に出たり等は状況に応じて対応しています。 年賀状や手紙等は自由です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く天井が高く、天窓もあり四季折々の飾り付けや置物により季節感を感じるようにしています。調理時の味噌汁や焼き魚の匂い等、生活の場所としての温もりも感じられます。	共用の空間は掃除が行き届き、清潔感がある。テレビの前や広い廊下に、ゆったりとしたソファを置き、利用者が好きな場所で休める工夫がある。共同作品からは、季節が感じられ、対面式のキッチンから調理中の匂いが漂い、生活感あふれる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの椅子やソファの配置により、それぞれが思い思いに過ごせるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや整理ダンスの位置は利用者の意見を取り入れて本人が動き易い動線に配慮しています。馴染みの物や写真等持込は自由で寝具等も使い慣れた物を受け入れています。明るく清潔が保持されるように配慮しています。	事業所でベッドや整理ダンスを備え付けているが、利用者が使い慣れた布団や毛布、家具など、自由に持参している。また、写真や思い出の作品、花などを飾り、窓から見える外の景色も、利用者の心の安らぎとなり、居心地良く暮らせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには張り紙をして分かり易く、居室の入り口は暖簾で部屋の認知が出来るようにしています。転倒リスクの高い方はホールから見える居室への配慮や車椅子の動線を配慮したテーブルの位置等安全に不安や混乱が起きない環境作りを工夫しています。		